

# 第14回がん患者大集会参加報告書



日時：2018年11月25日（日）開場：9時半 10時～16時  
会場：メイン会場（東京）：東京医科歯科大学M&Dタワー  
鈴木章夫記念講堂（東京都文京区湯島1-5-45）

## プログラム

10時～がん患者団体等の展示ブース（会場のエントランスにて）

①患者会活動発表

②乳がんリハビリ&自己検診体操 実演

③講演：1. 「私とがんの関わり」 日本対がん協会 垣添忠生先生  
2. 「がん医療における患者力とは」

東京医科歯科大学 坂下千瑞子先生

④参加型シンポジウム「皆で語ろう！患者力」

コーディネーター：澤祥幸先生（岐阜市民病院）

シンポジスト：垣添忠生先生

：坂下千瑞子先生

：長谷川一男氏

（肺がん患者会ワズステップ®代表）

：三宅智先生（東京医科歯科大学）

⑤アピール文提出



[乳がんリハビリ&自己検診体操の様子]



[展示ブースの様子]



第14回の開催となるがん患者大集会、今年も天候に恵まれ、メイン会場となる東京医科歯科大学鈴木章夫記念講堂には、9時の集合時間には多くの共催参加者が集合し、展示ブースの設営などが行われていた。今回の大集会には、事前登録者・当日参加者・関係者等を含めて300名近くの参加者があった。

細胞検査士会の参加者は11名で、受付準備・会場案内・写真撮影、そして集会終了後の片づけを担当した。受付については、事前登録者の受付2名で受付と報道関係者の対応、主催者への連絡も担当した。当日参加受付は1名が担当した。今回はシンポジウムで活用するアンケートの配布と回答のお願いを受付時に行うため混雑時が不安であったが、受付に並ぶ事はあまり無く、円滑に進められたと思われる。



シンポジウムでは、アンケートの内容に沿った内容で進められており、参加者・関係者の声を反映する新たな取り組みであったと思う。事前に回答された方は170人との事であった。

今回も厚労省・医師会・患者に対するアピール文が採択された。厚労省に対しては、就労支援や先進医療に関する法的整備に関する事、医師会に対しては、緩和ケアの充実や在宅医療の地域連携、そして患者に対しては、患者力の向上と協力が主な内容となっていた。毎回の事ではあるが、多くの患者会、そして主催されているがん患者支援機構のパワーを感じた。

細胞検査士会ががん患者大集会への協力をさせていただき、協力団体としての細胞検査士会の名前も主催者の方々に広く認知され、以前より円滑に事が進む事が多くなっていると感じている。今後とも主催者の方々と良好な関係が持続できるように、環境を整備していく必要があると感じた。そして私達はがん患者の方々を取り巻く環境の変化や患者さんの想いを知り、さらに細胞検査士を認知していただけるような活動を継続的に行う事が大切だと思った。

文責 細胞検査士会 渉外委員会  
吉田志緒子